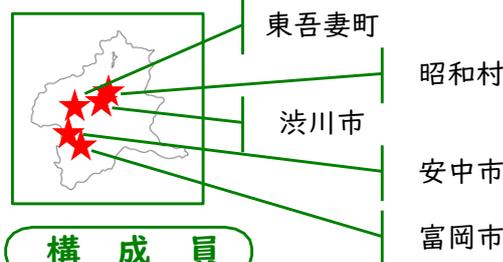


実施年度：令和4～6年度

### 背景・課題

こんにゃく栽培では、根腐病をはじめとする土壌病害対策が重要であるが、現在、土壌くん蒸剤として使用しているクロルピクリンから、環境への負荷が低い代替薬剤への転換と土壌くん蒸消毒に頼らない栽培体系の確立が課題。



### 構成員

群馬県技術支援課、農業指導センター、農業者、民間企業等

### 品目

こんにゃくいも

### 成果目標と達成状況

- 現在使用している土壌くん蒸剤のクロルピクリンを、より環境への負荷が低い代替薬剤に転換するほか、野菜類との輪作を行うことで、土壌くん蒸消毒に頼らない持続可能な栽培体系の確立を目指す。
  - グリーンな栽培体系に取り組む面積（輪作により土壌消毒せずに栽培する面積）  
令和4年度：3.5ha → 令和11年度：15ha
- ※輪作体系を検証するため、事業は令和4年度～6年度の3年間実施。

### 取組の成果

（令和4年度）

- 土壌くん蒸剤をクロルピクリンから代替薬剤のキルパーに転換した場合、土壌くん蒸剤の使用量は25%削減。また、野菜類との輪作を行った場合、主要病害である根腐病を回避でき、土壌くん蒸剤の使用量を100%削減。
- ドローンによる追肥作業の省力化を検証。慣行栽培に比べ作業時間を約50%削減。



- 土壌消毒を行った慣行区と代替薬剤であるキルパーを使用した代替薬剤区で比較検証を行った。



- ドローンでの追肥作業では、作業時間が短縮でき、散布精度も高いことを確認。

### 普及に向けた取組

令和4年度に行った、クロルピクリンの代替薬剤キルパーへの転換や野菜類との輪作により、土壌中の微生物叢に及ぼす影響なども明らかになってきたため、さらにデータを蓄積することで、より詳細な栽培管理との相関関係の解明を目指し、栽培マニュアル作成の素材とする。

問い合わせ先

群馬県農政部技術支援課 TEL：027-226-3074